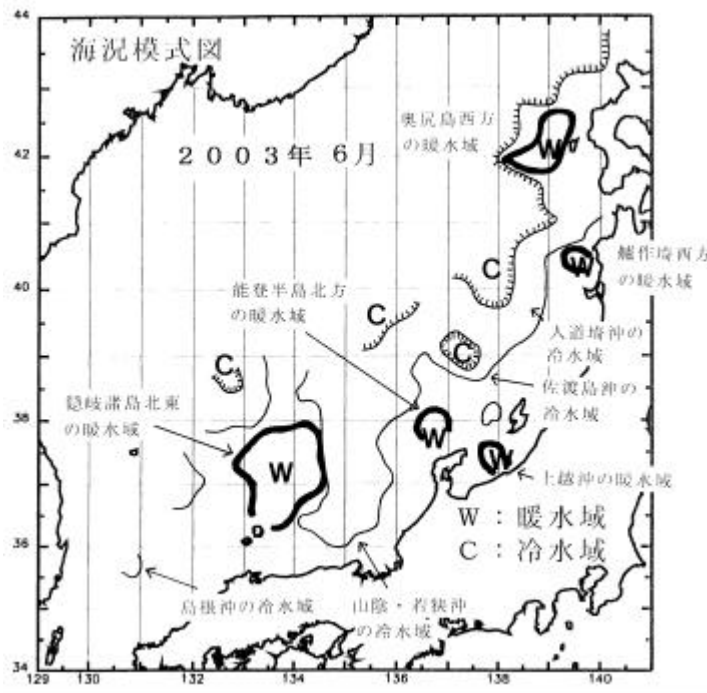


平成15年度第1回日本海海況予報

- 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 -

今後の見通し(2003年7月~9月)

対馬暖流域の表面水温は, "やや高い" (+1°C程度)で経過する
対馬暖流域の50m深水温は, "平年並み" (±0.5°C程度)で経過する



2003年7月~9月の海況

隠岐諸島北東の暖水域
は, ほぼ停滞
能登半島北方の暖水域
は, 北東に移動
上越沖, 越前湾西方,
奥尻島西方の暖水域は
消滅

島根沖の冷水域の張り
出しは, 弱い
佐渡沖及び入道埼沖の
冷水域の張り出しは,
やや弱い
山陰・若狭沖の冷水域
の張り出しは, 強い

1. 本予報は水産庁のホームページ (<http://www.jfa.maff.go.jp/>), 水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ (<http://abchan.job.affrc.go.jp/>) に掲載されます。
2. 本予報と関係した海況のより詳細な情報につきましては, 日本海区水産研究所のホームページ (<http://www.jsnf.affrc.go.jp>) をご覧下さい。
3. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は, 以下の通りです。
水産庁増殖推進部漁場資源課沿岸資源班 担当: 竹葉, 狭間
住所: 〒100-8907 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1
電話: 03-3502-8111 (内線7376) 03-3501-5098 (直通)
ファックス: 03-3592-0759
電子メール: toru_hazama@nm.maff.go.jp
水産総合研究センター 日本海区水産研究所 企画連絡室
住所: 〒951-8121 新潟市水道町1丁目5939-22
電話: 025-228-0451(0616) ファックス: 025-224-0950
電子メール: fra-jki@ml.affrc.go.jp

平成15年度第1回日本海海況予報

予報対象期間：平成15年7月～9月

平成15年7月2日

本予報は、平成15年6月24日～7月1日に開催されたFAX会議において、別表の水産関係機関が検討した結果を独立行政法人水産総合研究センター日本海区水産研究所がとりまとめたものです。

1. 本予報と関係した海況のより詳細な情報につきましては、日本海区水産研究所のホームページ(<http://www.jsnf.affrc.go.jp>)をご覧ください。
2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は、以下の通りです。
連絡先：〒951-8121
新潟市水道町1丁目5939-22
水産総合研究センター 日本海区水産研究所 企画連絡室
TEL 025-228-0451 FAX 025-224-0950

参加機関

北海道立中央水産試験場	京都府立海洋センター
青森県水産総合研究センター	兵庫県但馬水産技術センター
秋田県水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県水産試験場	(社)漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁増殖推進部漁場資源課
福井県水産試験場	日本海区水産研究所

平成15年度第1回日本海海況予報

1. 今後の見通し(2003年7月~9月)

- (1) 隠岐諸島北東の暖水域は、ほぼ停滞する。能登半島北方の暖水域は北東に移動する。上越沖、艫作埼西方及び奥尻島西方の暖水域は、消滅する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、弱い。佐渡沖及び入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや弱い。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、強い。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、“平年並み”で経過する。

2. 経過(2003年3月~2003年5月)

- (1) 3月に隠岐諸島北東でみられた暖水域は、ほぼ停滞。
3月に但馬沿岸でみられた暖水域は、東に移動。
3月に金沢沖及び佐渡島北方でみられた暖水域は、北東に移動。
5月に能登半島北東で暖水域が発生。渡島半島西方でも暖水域を確認(発生時期は不明)。
- (2) 島根沖及び佐渡沖の冷水域は、小さくて離岸。入道埼沖の冷水域は、やや小さくて接岸状況は平年並み。山陰・若狭沖の冷水域の大きさは平年並みで接岸(3月)。
- (3) 対馬暖流域の表面水温
3月：島根・山形沿岸で“はなはだ低め”の海域が分布するが、その他は概ね“平年並み”~“やや高め”となり、隠岐諸島北西及び津軽半島西方では“かなり高め”~“はなはだ高め”の海域が分布。
4月：青森沖で“かなり高め”となるが、それ以外は概ね“平年並み”。
5月：北陸以東では、平年より高めになる海域が多く、石川沿岸及び津軽海峡西方では“はなはだ高め”となるが、山陰沖では平年より低めになる海域が広く分布。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”(3月)。

3. 現況(2003年6月)

- (1) 暖水域は、隠岐諸島北東、能登半島北方、上越沖、艫作埼西方及び奥尻島西方に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、規模が小さく離岸。佐渡沖及び入道埼沖の冷水域は、規模がやや小さく接岸状況は平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、規模が大きく接岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、ほぼ全域で“平年並み”~“やや高め”となり、能登沖及び秋田・青森沖では“はなはだ高め”の海域が分布。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”。

(註) 引用符(“ ”)で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

“はなはだ高め”：約20年以上に1回の出現確率である2 程度の高さ

“かなり高め”：約10年に1回の出現確率である1.5 程度の高さ

“やや高め”：約4年に1回の出現確率である1 程度の高さ

“平年並み”：約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5 程度の水温

“やや低め”：約4年に1回の出現確率である1 程度の低さ

“かなり低め”：約10年に1回の出現確率である1.5 程度の低さ

“はなはだ低め”：約20年以上に1回の出現確率である2 程度の低さ